

人間的不注 意 (誤操作)	1	2	3	問題入力ソフトウェアのデータ保存形式を全ての問題を1つのファイルにまとめ、暗号化にて保存する形式に変更する対策を実施することで、部分的に送付してしまいう危険性を回避する。	○	リスク回避	0
人間的不注 意 (誤操作)	1	1	2	問題入力ソフトウェアで登録した問題データは、インターネット経由の問題登録サーバーに送付するよう対策を行うことで、外部媒体の取り違いの危険性は回避する。	○	リスク回避	0
人間的不注 意 (誤操作)	2	1	3	問題入力ソフトウェアのデータ保存形式を全ての問題を1つのファイルにまとめ、暗号化にて保存する形式に変更する対策を実施することで、消去を忘れた問題データは、当該問題入力ソフトウェア以外の手段で閲覧できない。また、問題入力ソフトウェアのパスワードは有効期限付きとする対策をとるため、経年後も過去のパスワードが分からない場合は閲覧することができない。さらに、問題入力ソフトウェアの再インストールにて再度パスワード設定を行う場合は、過去のデータは消去されるため、閲覧される危険性は回避される。	○	リスク回避	0

<p>人間的不注 意 (誤操作)</p>	2	1	3	<p>問題作成者から送付された問題データは、暗号化にて保存する形式に変更する対策を実施する。閲覧後に消去を忘れた問題データは、当該問題入力ソフトウェア以外の手段で閲覧できない。また、問題入力ソフトウェアのパスワードは有効期限付きとする対策をとるため、経年後も過去のパスワードが分からない場合は閲覧することできない。さらに、問題入力ソフトウェアの再インストールにて再度パスワード設定を行う場合は、過去のデータは消去されるため、閲覧される危険性は回避される。なお、管理者は暗号化を解除した問題データの再利用が可能のため、再利用した問題データの取り扱いについての危険性は残る。</p>	○	リスク低減	1
<p>人間的不注 意 (紛失, おき 忘れ)</p>	2	1	3	<p>問題入力ソフトウェアで登録した問題データは、インターネット経由の問題登録サーバに送付するよう対策を行うことで、外部媒体を使用せずサーバ上で一元管理されるため、他の媒体との混同による危険性は低減される。なお、管理者は暗号化を解除した問題データの再利用が可能のため、再利用した問題データの取り扱いについての危険性は残る。</p>	○	リスク低減	1

<p>人間的偶発的誤り(資源の誤用)</p>	2	0	2	<p>問題入力ソフトウェアのは、動作条件を満たしたWindowsPCであることを、依頼時に注意喚起すること、ソフトウェアの利用不可の危険性を回避する。本年度からは問題入力ソフトウェアをID、パスワードの通知によるインターネットサイトからのダウンロード形式とするため、ID、パスワードの通知時にあわせて注意喚起を行う。CD-ROM等の外部媒体配布時に比べ、諸注意を理解せず実施することが少なくなる想定され、危険性の低減がはかれる。</p>	-	リスク低減	2
------------------------	---	---	---	--	---	-------	---

表3 「課題の発生可能性レベル」の考え方

「課題の発生可能性レベル」	「課題の種別レベル」	
大： 2	大きい： 2	小さい： 1
小： 1	「要対策レベル」： 大： 3, 4 今後1年以内に課題の発生が考えられ、発生可能性も大きい ため、セキュリティ事故が起こる可能性は高い。	「要対策レベル」： 中： 2 今後1年以内に課題の発生は考えられず、セキュリティ事故が起 こる可能性は低い。
極小： 0	「要対策レベル」： 中： 2 今後1年以内に課題の発生は考えられず、セキュリティ事故 が起こる可能性は低い。	「要対策レベル」： 小： 1 今後1年以内に課題の発生は考えられず、セキュリティ事故が起 こる可能性はほとんど無い。
	「要対策レベル」： 小： 1 今後1年以内に課題の発生は考えられず、セキュリティ事故 が起こる可能性はほとんど無い。	「要対策レベル」： 小： 1 今後1年以内に課題の発生は考えられず、また脆弱性が極めて少 ないため、セキュリティ事故が起こる可能性は皆無である。